

運輸交通部会長報告

1. 会議名 第2回部会総会
2. 日時 2022年11月16日(水) 15:00～17:20
3. 場所 秋田商工会議所 7階 ホール80
4. 出席者 佐藤副会頭、正副部会長・部会員22名、水澤専務理事
5. 懇談
テーマ「自動運転の実現に向けた取り組み」
講演者 国土交通省自動車局 技術・環境政策課
自動運転戦略室 多田室長
テーマ「秋田港におけるトラック自動運転実証実験」
講演者 国土交通省東北地方整備局 港湾空港部
クルーズ振興・港湾物流企画室 佐藤室長
テーマ「日本郵船の事業展開について」
講演者 日本郵船(株)秋田支店 下村支店長
6. 協議 任期満了に伴う正副部会長の選任について

- ・ 国土交通省では道路・自動車の技術・制度等を所管し、車両の安全基準等を整備している。
- ・ 自動運転のレベルは5段階あり、現状はレベル2の移動サービス分野では全国各地で実証実験が展開されており、オーナーカー分野では高速道路でハンズオフ機能が適応されている乗用車がメーカーから販売されている。
- ・ レベル3で国内認可されているのは2つ。①移動サービス分野で福井県永平寺町で実施されており、運転車両は無人で遠隔監視での操作により運行している。②オーナーカー分野で高速道路でのレベル3対応車両が市販化されている。
- ・ 令和元年5月に道路運送車両法が改正され、その中で保安基準の対象装置に「自動運行装置」が追加された。運転者に代わり「認知」「予測」「判断」「操作」等全てを行う保安基準の対象装置に追加された。

- ・ 自動運転の社会実装に向けた課題検証、降雪等の影響を踏まえた導入ガイドラインを策定するため、秋田港をフィールドとして活用しトラック自動運転の安全性実証事業を実施している。
- ・ 自動運転レベル2で実施し、導入機器はレベル3相当の装備を用いて、気象条件は有人走行している条件の範囲内で、車両は平ボディー1車種で行う。
- ・ 令和3年度に3回の検討会を実施し、VRによるシミュレーションによる安全性の検証を行った。今年度は第4回検討会で実証実験計画の概要を協議し意見徴収を行い、実証実験走行に向けた関係者協議を進めていく。実車による実証実験を行った後、最終的にガイドラインの策定を行う。
- ・ VR検証結果としては、急カーブ区間における車線保持に関するリスクを確認することができた。
- ・ 実車実証実験計画では、一般車両が混在する公道での走行を含む状況で検証を行う予定であり、レベル2で走行状況を車内搭載カメラで確認し、遠隔監視室を設けて走行位置やカメラ映像等をモニタで確認し実施する。

- ・ 当社は、国際的な海上運送業を主とした総合物流事業および客船事業、ターミナル関連事業等を事業として展開している
- ・ 洋上風力発電分野への海運企業としてのアプローチとして、調査・F S段階ではマリンコンサルと地質調査船による対応、輸送・物流段階ではモジュール船や重量物船での対応、設置・据付段階ではS E P船やケーブル敷設船で対応、O & MではC T V船等で対応し各事業段階で参画している。
- ・ アンモニア・水素等の本船燃料としての利用及び貨物としての安全且つ効率的の輸送を展開しつつ、「地元の活性化」「再エネ(余剰電力)の有効活用」「カーボンニュートラルポート」等を具体化していく際の重要なパーツとしての役割を果たしていきたい。
- ・ 2022年2月に県との包括連携協定を締結した。洋上風力発電の人材育成事業として、男鹿市に訓練センターを立ち上げる計画で、2024年を目途に開始させることを予定している。国内有数の水深を持つ県立男鹿海洋高校のプールを活用する。
- ・ 洋上風力発電事業への貢献と、県との包括連携協定に基づく幅広い取り組みで、洋上風力発電を基点とした持続的発展に寄与していく。

協議 任期満了に伴う正副部会長の選任について

西宮公平氏（秋田海陸(株)代表取締役社長）を部会長に再任したほか、15名を副部会長に選任した。